

# SKKダイアベティスセミナー

ご自宅、病院、診療所などから、インターネットを通じてご視聴いただけます。

HbA1cは血糖値の平均的な状態を反映する血糖管理の指標として用いられていますが、血糖変動の大きさを把握できないところに問題がありました。近年、CGM(Continuous Glucose Monitoring)が普及し、日常診療においても容易に血糖変動を把握できるようになり、血糖変動を考慮した血糖管理が可能になってきています。本セミナーでは、「Beyond HbA1c」をテーマに、より良い血糖管理を目指した薬剤選択とインスリン療法におけるCGMの活用法について、2人の先生からご講演いただきます。

【配信期間】 オンデマンド配信

2024年11月14日(木)12:00~12月8日(日)23:59

セミナーテーマ

## Beyond HbA1c

演題1  
[約25分]

### 経口薬治療において血糖変動を抑えるには？

北海道大学病院  
糖尿病・内分泌内科 診療准教授

中村 昭伸先生



略歴 | 2001年 3月 横浜市立大学医学部卒業  
2001年 5月 北海道大学医学部第二内科 研修医  
2002年 4月 砂川市立病院内科 研修医  
2003年 4月 札幌社会保険総合病院糖尿病内科  
2004年 4月 滝川市立病院内科  
2005年 4月 北海道大学大学院医学研究科内科学講座・第二内科  
2006年 4月 横浜市立大学医学研究科分子内分泌・糖尿病内科学  
2009年 3月 北海道大学大学院医学研究科卒業 医学博士  
2009年 5月 横浜市立大学附属病院内分泌・糖尿病内科 助教  
2013年 4月 北海道大学病院内科Ⅱ 助教  
2018年 2月 北海道大学内科Ⅱ 診療講師  
2020年 3月 北海道大学大学院医学研究院 免疫・代謝内科学教室 講師  
2022年 9月 北海道大学病院糖尿病・内分泌内科 診療准教授  
2023年10月 北海道大学病院ダイアベティスマネジメントセンター センター部長 現在に至る

演題2  
[約25分]

### 発想を変えてCGMをもっと有効利用しよう！

東邦大学医学部 内科学講座  
糖尿病・代謝・内分泌学分野 教授

弘世 貴久先生



略歴 | 1985年 3月 大阪医科大学卒業  
1985年 5月 大阪大学第三内科 研修医  
1986年 7月 公立学校共済組合近畿中央病院内科 医員  
1988年 4月 大阪大学大学院医学研究科入学(1992年医学博士号取得)  
1992年 4月 米国国立衛生研究所(NIH) 研究員  
1995年 4月 大阪大学医学部第三内科 研究生  
1997年 6月 大阪大学医学部第三内科 助手  
1997年 8月 西宮市立中央病院内科 医長  
2004年 4月 順天堂大学医学部内科学代謝内分泌学講座 講師  
2006年 4月 順天堂大学大学院代謝内分泌内科学 助教授  
2007年 4月 同前任准教授に呼称変更  
2012年 4月 東邦大学医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌学分野 教授 現在に至る

主催 株式会社三和化学研究所